

齋藤茂吉全集

第五十五卷

齋藤茂吉全集 第五十五卷

(第二期第三十回配本)

昭和三十一年五月六日 第一刷發行 ©

齋藤茂吉全集 第五十五卷

定價七百五十圓

著者

齋藤 茂吉

東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地
發行者 岩波 雄二郎

東京都青槐市根ヶ布三八五番地
印刷者 山田 一雄



發行所

東京都千代田區
神田一ツ橋二ノ三
株式會社

岩波書店

著者・編輯・印刷・製本

精興社印刷・製本

書
簡
四

目次

昭和二十一年	一
昭和二十二年	一六四
昭和二十三年	三四
昭和二十四年	四三九
昭和二十五年	五五三
昭和二十六年	六五〇
年次不詳	六六〇
書簡補遺	六六九
書簡索引	七五三

後記

.....

—

昭和二十一年

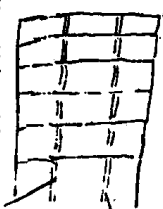
五七二〇 〔一月一日 愛知縣海部郡菰野寺町下萱津 伊藤信太郎様 金瓶齋藤方より（はがき）〕

恭賀新年 一月一日 ○今日御芳書いただきました○どうぞ御奮闘ください○小生の「童牛漫語」といふ舊文のもの、一冊（五五〇ページ）今日朝日新聞に廣告出てゐましたが、三十二圓二十錢です、こんなに高くては賣れぬとおもひますが、御友だちに御すゝめしてください東京都世田谷區代田一ノ六五二齋藤書店です。小生の洋行迄の小文全部です○今年ぢゆうには小生歸京いたしますから、萬年筆、インキ、岩波の岩學書〔原〕（西田博士關係？）小生の歌集も御ゆづりください、目錄一寸（代價も共に）御示してください。二月から、山形縣北村山郡大石田町二藤部方になります。

五七二一 〔一月一日 東京都蒲田區新宿町一五二二橋本様方 佐藤佐太郎様 金瓶齋藤方より（はがき）〕

拜啓御ハガキ拜受○十六日から毎日御まち申し樂しみにしてゐましたが、到底御見えにならぬと決心いたしました。残念ですけれども、どうぞ今後御用事は御手紙にしてください○來月移るので、いそがしく、外出がちなになりますので、大兄のことあてにせず外出いたします。○文學直路の正誤表おくりましたから、（鎌田君から何とも返じない）御利用の上、再版に著手してくれませんか○、電報は金瓶には打たずにください。大石田の方はかまひませんでせう○青磁社へ御かはりのよし、大に御うでをふるつてください。「つゆじも」も岩波にわたしました。布川氏宛ですから折があらば御鞭打ください童牛漫語で廣告出てゐました。

恭賀新年 昨年は大石田にていろいろ御芳情に接し申上候今年も相不變よろしく御願申上候さて突然ながら今般東京の小生のセガレ等が一家を持つことゝ相成候がそれに平家にて二間(八疊、六疊)或は三間(八疊、四疊半、三疊)ぐらゐ増築仕り、老生の勉強部屋にいたしたく候につき、^{大 便 所}御都合にて御實見の上その場處、建築計畫等御配慮下さるまじく候や○小生の勉強部屋とせば、一切の裝飾等不要、その代りに書棚が必要に有之、書棚は最初から作りつけにてもよろしく、又、普通の押入の中に棚をつくり、フスマを立てゝ見えなくする方法もあり、その棚の間隔は、六寸(四六版)八寸(菊版)の混合に、一段は一尺二寸が必要に御座候



コレガ必要に候

洋書は非常に重いゆゑこのサンが必要に御座候

いろいろ申上げて失敬に候が御都合にて御見積書等御示し下されたく願上候○建築の名は齋藤茂太にてよろしく、願書等一切よろしく御願申上候、○小生の勉強の關係上、やはり離れの方よろしけれども、狭い土地ゆゑ、専門家たる貴堂の御良識にたより申上候(なほセガレの意見をも御入れ願候)○屋根は「瓦^{かへ}ぶき」に御願いたしたく、小生は夏まけにてよわり候につき、一工夫願上候(舊式のドロ(泥)をあげれば一番ありがたし)○一寸御ひまの折、御返じ願上候 頓首 元旦 齋藤茂吉 伊藤清様

〔封筒に〕◎一月十九日 御宿所不完全に記し失敬いたし候

五七二三 二月一日 東京都杉並區大宮前六ノ三四〇 齊藤茂太様 金瓶齊藤方より

恭賀新年 今年も丈夫にて御奮闘ねがふ。○住所變更。これは小生も届けるが、赤坂の區役所、税務署等に御届け下さい。山形縣方面に來ると厄介になり、二重の手間になるから。○鎌倉の高橋愛次氏の熱意も、つまりは實行はむづかしいらしい。併し御親切に對し、一應御聽取ください（急がない）。○小生と茂太の税金、青山の土地、貸家、箱根ノ土地家、杉並の家、小生の著作權、書籍（これと軸物は焼けたといつてください）で全體の大體五分の一ぐらゐの見込也。○杉並は茂太が主になつて、かまはぬ、醫師會等への届、（小生は後まはしでよい）。○増築。大石田の歌人で鎌倉工業株式會社常務取締役、伊藤清氏は目下、北多摩郡國分寺町松風園二四七一番に住み、會社は王子區上十條一ノ十六にある。簡易建築の様子であるが、小生の勉強部屋位は出来る筈であるから、一つ建築しようとおもふが賛成してくれ。はじめは八疊の二階にしようとおもつたが、平家で八疊、四疊半三疊でかまはぬ。伊藤氏にも手紙出しておいたから、見に來てくれると思ふ。その増築場所は、小生には分からぬから向うの人とよく相談してくれ、（畑にもあまり犠牲にならぬと猶よい）（將來柿も植ゑたい）書棚が必要だが、焼けた青山の新宅の二階の茂太の書棚のやうな體裁がよいものだ。又新宅の上の小押入の體裁もよい、兎に角、普通の押入は（布團、その他）を入れるほかに、小生の部屋は、書棚が一番必要で、いくらあつてもよい位である。一つ御骨折乞ふ。棚の間隔は、七寸、八寸、九寸（コレノ混合で割合をとる）、一尺二寸のを一段、

○父上は兎に角、夏迄は大石田に居る。そして出来るだけの事をして、増築つまり勉強部屋が出来れば歸京して、皆と一しよに住むそれまで孫も出来るから楽しみである。美智子もせいぜい養生してください。○百子もSchauのよし、これも楽しみである。百子もせいぜい養生させてください。○昭和二十年は實にきびしい年でしたが、今年はどうか、大に奮闘してください。○丸通で荷を送るときは、「中央線、西荻窪驛」でよいか、一

應、丸通に當つてみてください。金井で一寸きいてみたところ、「荻窪驛」だらうといったから、念を押す。元日、父より

○宗吉のこと、時々通知してください。上ノ山へまゐる切符、汽車等の模様。上野驛迄送つて来てくれるか、省線で来て、朝の汽車がよいときいたが前の夜から来てゐるとの事だ、又福島行でも、仙臺行で、^原青森行でも何でも乗るときいてゐる、

宗吉の切符買へる見込あるか、どうしても無いとせば當方から速達で何とかして送らうか。併し速達も四日を要するとせば、切符とゞいたら、早速出發するやうに十八日、十九日、二十日あたり準備しておいてもらひたい。

〔別紙〕!!!○鎌倉の高橋氏の意見きゝにゆくことは特殊預金の表は不要、大體二十萬ぐらゐると、話していゝだらうか。又その實行の點は先づむづかしく不可能と思ふ。しかし高橋氏の意見を黙つてつゝしんで聽くことは大に有益であるし、相當の實業家だから、經濟方面についていろいろと問ひたゞすことは必ず賢しくなるとおもふから若し汽車切符が買へたら、時日を約束していつてくれ決して急ぐに及ばない。たゞ吾々は素人であり、非力だから高橋氏並に萬事實行はむづかしいのである。吾々はたゞ正直に著實にゆくより爲方がない。

五七二四 一月二日 熊谷市上之區前中西二四二七 鹿兒島壽藏兄 金瓶齋藤方より

恭賀新年 御新雜誌もなかなかたいへんと存じます、(大に感謝してをります) どうぞよろしく御願申上げます○歌五首申上げます、このごろ亂作つゞけですから、次回からは少々怠けることゝ存じ、失敬いたすことになりませうから不惡願候やはりアララギの方専門にいたしたいと存じます。アララギの表紙も小生は從前の通りのゴシック活字の方好ましいと存じをります○齋藤茂吉氏、二月より山形縣北村山郡大石田町二藤部氏方に轉居。當分御來訪なきやう願ふとの由 右、編輯所便のついでに御願申上げます。○文章は、當分中止いたし

ます、大石田も數ヶ月は無爲のことで過ぎるでせう 一月二日 齋藤拜 鹿兒島雅兄

五七二五 (一月三日 神奈川縣藤澤市鶴沼六二二八 田中隆尙様 金瓶齋藤方より (はがき))

賀正 廿一年元旦 大に御自愛してくれたまへ○東京新聞正に拜受、三ヶ日雪降らず、非常に楽しい 頓首
零下七度。硯氷る、

五七二六 (一月三日 東京都杉並區阿佐ヶ谷三ノ五一一八 雲書店 伊藤壽一様 金瓶齋藤方より (はがき))

賀正、廿一年元旦○「夜話」の第三の挿繪、一ツは梧竹翁の鎮國の山、一ツは左千夫先生の寫生繪はどういふ物でしたか、記憶を失しましたから、御ハガキで大體模寫して送つて見てくださいますか。○淺流の最後の校正は遅くも一月二十日迄それが間にあはずば二月に入つてから(二月十日頃、山形縣北村山郡大石田町二藤部方に送つて下さい。齋藤書店に挿繪の寫眞版御わたし下さつたよし感謝いたします○大塚が焼けたので、出来あがつたものを取寄せておかなかつたのは残念でした。原寫眞が無くなりましたから、旨くは出来ないでせう○御自愛願ひ上げます。

五七二七 (一月三日 山形市十日町 齋藤利世様 金瓶齋藤方より (はがき))

賀正 廿一年元旦 御芳書も頂戴いたしました。先日は大切な御爲事のため御いになられなかつたのですから怒るところではありません○小生移轉するためごたごたいたしをりますのでいづれ移轉しましたら御遊びに御いで下さるやう御願ひ申上げます、長岡君にもよろしく御願ひいたします 頓首

五七二八 (一月三日 長崎市櫻馬場町一二一 今宮武雄様 金瓶齋藤方より (はがき))

賀正 ○三菱御やめのよし御感慨の御事と存じます○アララギの方も御精進のほど願上げます○小生二月から、山形縣北村山郡大石田町、二藤^{フジ}部方に移ります。當分御返事あげられませんか、御たよりいたゞくことは非常にうれしいけれども、返事のなくていゝ御たより願ひ上ます○森路春實君御かへり、父君母君なきあとにてさぞかり御^原悲歎の御事と存じます○小生の第三歌集、近々岩波書店から出ますが、森路兎平君の名が澤山出てまゐります、その歌集は前以て書店に注文しておいてください(四月ごろ出版になりませうか)○山根氏のことも忘れずに吊ひをります。

五七二九 (一月三日 北村山郡大石田町 板垣家子夫様 金瓶齋藤方より(はがき))

賀正、昨年中はいろいろ御厚情に接しました今年も大に御厄介になります、○月夜吹雪の御歌、「高窓明き」の句は流石で、感覺の一大飛躍でせう。しかしやはり前便の「月夜吹雪」の御歌の方が上でせう。たゞ一生に一度か二度のみ用ゐるべきものとおもひます○スキイに来て、折角の御部屋とられてはこまりますから町長殿に御願して、豫約を堅固にしておいていただきたいのです、○荷の方も只今、研究中ですから、いづれ具體的に申上げて、御助力を御願ひいたします、

五七三〇 (一月三日 東京都杉並區大宮前六ノ三四〇 齋藤茂太殿 金瓶齋藤方より(速達))

拜啓○今日宇田の父上から別紙の如き御意見とゞきましたから、御おくりいたし、前便のと比較の上御考慮願升、この方だと簡単に出来、金も安いと思ひます。いづれでも結構です、一つ御相談願升○焼跡の「瓦」は内藤榮次の所有物ですから御わたし下さい。○今度の増築も内藤にやらせてもよいが、やはり伊藤清の會社に當らせてもよいと思ひます、伊藤清は歌人ですからあまりゴマカシはしない筈です鎌倉工業で、餘り小さい物が受負はぬとせば、内藤に頼んでもよく杉並區馬橋三ノ三二五(電話中野七二七七)内藤榮次ですから、餘り遠

くなければついでに遊びに行つて話してみてもよいかも知れなし（鎌倉の高橋愛次氏ノカカリツケ大工）（○高橋氏訪問は延期しました）

○西荻新宅の塀は垣か、板塀か、どういふものであらうか。

Wichtig! ↓ ◎宗吉、配給だけで、東京で生活出来るなら、無理難儀して上ノ山迄来る必要がない。（父も、來ない方が氣樂でもあるのだ）又山城屋に頼むにも、一通りではないのだから、又山城屋にしても快氣がなければ厄介者を引受けられるものではない。そこで若し、氣乗せず、上ノ山に來ないなら、さう極めてしまつてよい。父は今月末、大石田に行つてしまふのだよ。どうしても上ノ山に感謝しつつ來るならば、切符速達で送つてみてよい、二十五日出發なら、さうちゃんと極めて、切符が届いたら、直ぐさま汽車に乗るやうにすれば間に合ふとおもふ、（二十四日、二十五日あたりは在宅、のこのこ出てなど歩いてはならぬ）右相談の上、速達で返事（手紙で）しなさい。

!!（上野から汽車に乗るのが實際にひどい状態にて上ノ山迄三日がゝりだとも聞いたから、宗吉の來る時には餘計荷を持たぬこと體を冷やしてよいやうに、野宿するやうな覺悟のこと、

○小便所のハトロン紙袋二三これは父上から既に教へた

五七三一（一月三日 群馬縣吾妻郡原町川戸 土屋文明大人 金瓶齋藤方より）

恭賀新年 大金いたゞき實に感謝いたします、萬事大兄のみ御使ひまうし相すみ不申候今日「新泉」と「アララギ二月號」に拙哥おくりました○表紙ゴシックに還え、大に意にかなひました。表紙はやはり活字體でない氣品がありませんから、將來もさやう御願します○小生は當分は支社の雜誌でなしに本社（原）の雜誌に出したい考です○大石田にまゐれば三四ヶ月は何も出來ぬとおもひますから、なるべく、今度得た小宅に手入して歸京したい考です、金瓶も大石田も實に寒いところですよ上ノ山は餘程温いが、それでも東京よりもひどい處です○

立木の件御令弟に御願しておきます○奥様御嬢様、御令息によりしく 茂吉山人 土屋大兄

五七三二 (一月四日 千葉縣船橋市小栗原三ノ六〇 土橋利彦様 金瓶齋藤方より)

恭賀新年 ○御芳書、(三十日附) 一月四日に拜受いたしました○日華協會の先生篇は解説御助力御願いたしました、轉居後、頭茫乎として、はたらきわるくいかなとも致しかねますが、陽春迄には何とか致したく存じてをります、○ハクガン・ダルマは實にありがたし、實はシロメと讀むのだとすると、間違つてしまふので、御教を御願したのでした○老先生いよいよ八十の壽齡で、よろこばしい限であります、伊東は何と申しても健康地ですから、御いでになられるだけ御いでのこととも御賛成です○小林勇君、御便りまだあげませんがいづれ移居ののちに致しませう○萬葉訓につきつぎに御示し下され大に有益であります。この前のは少しく調がくだけていかゞとおもひます。人麿哥のは、小生も大に有益でありました。フネ、ノリイダス、は調も張つてゐますが、額王女王(田)のニギタヅニ、フナノリセムとありますから、名詞にするのだとしてもフナノリですが、動詞とせばフネ、ノリとなるでせうが、イダスといふ語が無いので困ります。「舟公」といふ支那の熟語を、いつか御きゝ下さいませんか、又「公宣」の熟語等、しかし「宣」を「乗る」としたのは賛成です、齋藤茂吉 土橋兄侍史

幻談(日本評論社) 求められませんか

五七三三 (一月四日 名古屋市中村區中村町九ノ三六 岡井弘様 金瓶齋藤方より(はがき))

賀正 東海アララギ會報御盡力何ともありがたし○迂生、毎日手紙ハガキかいて日をおくる始末、何ともいたしがたく候につき、暫らく御無沙汰仕り候、不悪思召のほど御願いたし候、○堂々たる會報にて、御骨折ふかく感謝いたし候 頓首

五七三四 〔一月四日 神奈川縣藤澤市鵠沼 6228 田中隆尙君 金瓶齋藤方より（はがき）〕

拜復、鎌倉へ申上げた歌、たいしたものにあらず、前以て見るに及ばず、いづれ發刊になるでせうからその節に御一讀ください。前以て見たいなどいふ事はゴシツブ趣味にてつまらぬ事也○大兄の御自愛御養生いのる
頓首

五七三五

〔一月八日 東京都世田谷區玉川奥澤町一ノ二三二アララギ、五味保義様 金瓶齋藤方より（はがき）〕

恭賀新年 いろいろ御盡力大謝申上候○歌も亂作のみにて恐縮乍ら、二月號は御所宮本君宛におくり申上候、○三月號もいづれ御おくり申上げた、支部までは手が延びず候につき御ゆるしの程願上候○二月號に小生の大石田移動のこと編輯所便に一寸御通告のほど願上候○東北の寒さは格別にて實はおどろき居り候、しかし新年は天氣好くめぐまれ申候、萬々 頓首

五七三六

〔一月八日 横濱市神奈川區六角橋一二五 佐伯藤之助大人 金瓶齋藤方より（はがき）〕

恭賀新年 昨年はたいへんな年でありまして又一方ならぬ御世話様になりました。どうぞ今年も御助力の程御ねがひ申上げます、御令息はじめ御嬢さん皆々様によりしく御願いたします。茂太の新居、御面倒みて下されたく御願いたします 頓首

五七三七

〔一月八日 神奈川縣大磯町神明町 加藤洵綾畫伯 金瓶齋藤方より（はがき）〕

恭賀新正、○「董牛」の件拜承しました○御傳授は三月の歌會あたりいかゞでせう○安田先生によりしく御願いたします○國歌大觀は東京都杉並區大宮前六ノ三四○齋藤茂太迄小包にて御郵送願上ます○移轉終了、まで

はどうも氣が落つかず弱ります 頓首

五七三八 〔二月八日 北村山郡大石田町 板垣家子雄様平安 金瓶齋藤方より〕

賀正 ○歌三つおくります、ハガキ等にかいたものは會報にのせずにください○會報は土地の人が勉強して出した、結城君が中心になつてやりたい○しかし東北は土屋君の意見では仙臺の扇畑君らしいから、大石田は大石田ですることになりますか、いづれ拜眉萬々○廿五日から三十一日の間に御地にまゐりたし——これは後日はつきり申上げます荷さへ動けば大兄に来ていたゞかなくともよいやう也、たゞ切符を御願出來れば一番忝し曰さん御全快にや、よろしく御傳言願升 齋藤 板垣兄

五七三九 〔二月十日 伊豆、伊東温泉松林館 幸田露伴先生 金瓶齋藤方より〕

新年御めでたうございます 先生もいよいよ八十の御壽齡に達し被遊まして御めでたうございますどうぞ温泉力により御歩行も樂にお成り被遊るゝことを念願仕ります當村、舊臘廻覽板まはりまゐりまして舊曆のお正月といふことに相成りましたので只今は何の行事もございませぬ積雪すでに三尺或は四尺ぐらゐでございます客臘より根雪と相成りました、幅六間の産業道路も四月すゑまでは積雪の儘にて放置いたすが例年のならひでございましたところが八日の夜八時、人の往來の殆ど絶えた時分に進駐軍の戦車に改良を加へましたやうなもの持ちまゐり見るゝうちに積雪を除去、路傍に石垣のやうにつむ鹽梅にいたし、一夜にして山形より米澤まで、又北方もそのやうにしてやつてしまひました。その手際を見たる農民も驚き入り瞠目いたした次第でございます。特に日中人民の住來時を避けましたことも手際の一つと存じます一方マツカサ司令部の命にて、當村の朝鮮人家族にのみ特配として一軒に毛布七枚、洋服（下士の軍服）六著を配給に相成りました。さういたしました、日本國民には悉皆さういふ品の配給は無いのでございます一月三ケ日は晴でございましたが又雪が猛

烈にふり居ります三ケ日のうちは蘇子瞻と米元章といふ御文を再讀いたしましたが、海野美盛さんの少年のころのお話も有益でございました今日は山形市にては、新年十日の市が立ちまして（マツカサの許可の下に）吹雪の中に山のやうな人出だつたと申します。頓首 10/1 齋藤茂吉拜 幸田露伴先生玉案下

五七四〇 〔一月十日 齋藤茂太・齋藤宗吉宛（封筒缺）〕

拜啓山形の驛長に依頼の件、成就し、往復切符入手の事、結城健三氏といふ方に御盡力願ひ、今日御承託を得ましたから〇二。十五。日。に間にあふやうに往復切符を速達書留便にて郵送する、〇入手したらば直ちに出發せよ。汽車の時間は上野發秋田行十九・二〇これは直行で物すごく混亂だけれども正午ごろからならばどうにも割こまれるそれがいけなければ上野發東北小田二三・〇〇で福島に乘換、福島始發にのりかへ（待つ間、防寒用意顔を蔽ふ用意靴下充分ノコト）午後一時の汽車もあるいづれでもよい。これにて來なさい。荷物は限度に少くし、ルツクサツク一つでよい。上ノ山、山城屋に來ること、轉出届も上ノ山山城屋のこと 一月十日 父より 宗吉との茂太どの

五七四一 〔一月十一日 長野縣下高井郡穂波村佐野字角間岳心莊 泉幸吉様 金瓶齋藤方より（はがき）〕

拜啓〇京都御本邸より御歳暮いたゞき大謝奉り候〇序文中、「それを鑑み」は「それを一顧して」の方よかるべし〇歌集の題は「靈峯」はどうしても自分の歌と關係して讀者が受取りますから、工合がわるいでせう。もつと清爽でつゝましい名がよいとおもひます〇アララギ叢書の件、五味君にいつてやりました。〇戦争の歌、本屋と御相談下さい。マツカサの許可檢閱が要りますよ。

五七四二 〔一月十一日 東京都下谷區上野櫻木町三八 尾形裕康大人 金瓶齋藤方より（はがき）〕